

登録コード	UAC61500	開講年度	2026				
授業題目	芸術コミュニケーション研究Ⅴ				担当教員	濱崎 友絵	
					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				⇔	・芸術領域にかかわる諸問題を通時的・共時的観点から議論することで、専門的な知識と、それを支えるアートリテラシーが獲得できる。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				⇔	アートリテラシー獲得のための、美術、身体表現、音楽の専門的な各論である。本授業は、音楽学領域にかかわる諸問題を、通時的・共時的観点から議論し、自ら調査、発表するアクティブ・ラーニング・ベース方式で進められる。音楽と人との関係についての理解を深め、具体的に分析、記述ができるようになることを目指す。	
(2)授業の概要	本授業では、音楽学的観点から音楽と人をめぐる諸問題を考察する方法を学ぶことをねらいとする。音楽領域において近年注目される音楽とメディア、身体性などのトピックを含めながら、音楽学的アプローチ方法や分析方法について検討し、自らの問題意識を整理していく。発表およびディスカッションを通して、音楽と人との関係を読み解く可能性を考察していく。						
(3)授業計画	第1回： ガイダンス 第2回： 研究対象および先行研究の確認・検討 第3回： 楽器とは何か（発表と補説） 第4回： 楽器とは何か（課題と討論） 第5回： 身体－音楽（発表と補説） 第6回： 身体－音楽（課題と討論） 第7回： メディアとしての楽譜（発表と補説） 第8回： メディアとしての楽譜（課題と討論） 第9回： 「見えない」音楽理論（発表と補説） 第10回： 「見えない」音楽理論（課題と討論） 第11回： 現代における音楽伝承（発表と補説） 第12回： 現代における音楽伝承（課題と討論） 第13回： 「伝統音楽」再考（発表と補説） 第14回： 「伝統音楽」再考（課題と討論） 第15回： 総括（音楽学の可能性を考える） 期末試験の有無 なし						
(4)成績評価の方法	各回の授業時の発表30%、ディスカッション30%、レポート40%						
(5)成績評価の基準	（i）各授業の課題に対してその問題意識が的確に把握され、（ii）発表（レジュメ作成も含む）が適切かつ建設的に行われ、（iii）発表内容とともに提出されたレポートの内容が正確かつ高度なものであれば「卓越している」と評価する。全般に的確であり注目すべき論点を含むものであれば「かなり上にある」、以上の項目すべてに関して妥当性が認められる場合は「やや上にある」、総合的に見て妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	事前学習としてテキスト（外国語資料を含む）の読解と発表資料の作成が必須。事後学習は、授業ごとの復習を課す。これらを踏まえた上で最終レポートの提出が求められる。						
(7)履修上の注意	ディスカッション・ベースの授業展開となるため、受講生は発表準備とともに、積極的に議論にかかわることが必要となる。自主的に音楽鑑賞や音楽体験を積み上げつつ授業にのぞんでほしい。						
(8)質問,相談への対応	メールないし来室も可。オフィスアワーは初回の授業で示す。事前に来室希望日時をメールで連絡してほしい。メールアドレスは「授業内容紹介」を参照。						
【教科書】	とくに指定しない。必要な資料は配布、あるいは入手方法を指示する。						
【参考書】	徳丸吉彦『音楽とはなにかー理論と現場の間から』岩波書店、2008年。						